

令和4年度第3回 綾部市地域公共交通活性化協議会 議事録

日 時：令和4年9月14日（水）13時30分～15時00分
場 所：綾部市I・Tビル 2階 多目的ホール

1 開会

開会あいさつ 会長 綾部市長 山崎善也

2 委員紹介【資料1】

出欠状況については別紙「出席者名簿」のとおり

3 報告事項

○あやバス等の取組報告について

あやバス高校生モニター調査の実施

鉄道利用ではチケットレスサービスに関するスマホ教室や「あやべあいトレイン 京都サンガ F.C. 日帰り応援ツアー」の実施

4 議事

第1号議案 綾部市地域公共交通計画の素案について（原案のとおり承認）

A委員

市街地周辺に住んでいても、家からバス停まで遠い。70歳以上の独居老人が多く、停留所までの移動が困難になっている。解決のアイデアとして、バスの小型化をできないか。市街地周辺は道幅が狭く、乗車人数が少ないが、小型バスの導入可能性をお聞きしたい。

B委員

資料2のP29の基本方針2施策4に記載されている公共交通利用教室について、想定している内容を教えて欲しい。

C委員

綾部市内は地域性があり、高齢化率が高い地域とそこまで高くない地域がある。元気な間に色々な方法を模索することが大事である。上林地区のラストワンマイル対策は、ほかの地区でも同じことが言える。教室や勉強会を開催しながら、地域特性を把握したい。地域の知恵を集めて対策を模索し、早々に仕掛けていきたい。

D委員

市全体の高齢化率が39%、地域によっては50%を超えている状況にあり、免許返納者が増える可能性がある。また、バス停までの交通手段については、東部だけではなく、綾部町内においても同じ問題がある。

E 委員

公共交通を整備する上で、コストの問題が大きい。そのため、全体の意見に沿って整備等を考えてほしい。ただ全体の意見となると、生産年齢人口層からの意見や運転できる人の意見に沿うことになるかもしれないため、自家用車を持っていない人、バス停や駅までアクセスすることが困難な人の意見は大事にして欲しい。

福祉の介護事業では、送迎費用を別途もらって送迎している。また、あやべ福祉フロンティアの移動サービスもある。綾部市の公共交通を、体系的に総合的に考えていく必要がある。

公共交通の需要予測にもとづいて、ルート等を整理した上で、バス停まで移動する方法を、公で支援するか、地域共同で実施するか、助け合って輸送するかなどを考えてほしい。

夢を言えば、ボタンひとつで自動運転の車が家の前まで来てほしい。

F 委員

JR 駅の切符の買い方が難しいのは、利用者にとって支障があると、綾部市鉄道利用促進事業実行委員会でも意見が出ている。その対応として、9月1日にスマホ教室を開催したが、予想以上に参加いただき、多くの方が関心を持っていると言える。これからもこのような機会を増やしたい。

全体的な公共交通網を見ると、日常的に利用する人が使いやすい交通システムであることが大切である。日常的な利用者のために集中的に取り組むことが良い。従って綾部市では、あやバスへ集中的に取り組むことになる。費用対効果のことは分からないが、全国的に見ても、市街地を市営バスが隈なく運行し、とても生活しやすいまち、というぐらいまで運行できれば良いと思う。綾部市のなかで自慢できることを計画に盛り込んでほしい。

G 委員

必要などころに本数を増やしてはという意見は昔から出ている。ただ、費用の問題や、一点に集中することが市として出来ないため、待機している状況にある。

大きな問題はドライバーの確保である。高齢化により、二種免許保有者を確保することが非常に困難になっている。ドライバー不足で、みなさんからの期待に応えられていない点もある。

交通渋滞や利用者の高齢化により乗降時間がかかるなどで、ダイヤ通りの運行が難しく、ドライバーがストレスに感じている点もある。

H 委員

あやバスの運営やラストワンマイル対策の現状を踏まえると、この方向性にならざる得ないと感じた。

自動運転について、2020年にタクシー業界で試験運行の話があったため、国土交通省の計画の中に入ってくるかもしれない。新しい情報を常に提供して欲しいし、そのような動向を踏まえて、計画検討を進めて欲しい。

駅で交通系 IC カードが使えないことに苦言を頂いたことがある。そのため、綾部駅で交通系 IC カードを使えるようになったことは非常に嬉しく思っている。

I 委員

高齢化により退職するドライバーが多く、新しいドライバーが集まらないことが一番の問題である。維持のための取組として、ドライバー確保などで何か良い方法がないか模索しているところである。他の自治体の会議の場でも発言しているが、市職員 OB/OG や自衛隊 OB/OG に声をかけるなどの方法を検討している。

ラストワンマイル対策としては、タクシーが最も適しているが、ドライバー不足のため対応できていない現状がある。

J 委員

地域公共交通計画素案について、市民の方にもわかりやすいように、路線図をつけてほしい。福知山市営バスに対しては、綾部市としてできることは限られるが、この計画の対象公共交通から除外する必要はないと思う。綾部市が、自慢できるまち・誇れるまちとして、どのようなサービスを提供することが望ましいのか、どのようなサービス水準が良いのかを、イメージ共有のためにも整理してはどうか。観光振興の点で、京都府北部地域連携都市圏公共交通計画や JR 山陰本線（園部～綾部）沿線地域公共交通計画で観光振興を踏まえた施策が盛り込まれている。観光交流の促進は、地域公共交通を持続可能なものにする上でも重要な要素であるため、この計画にも反映していただきたい。

K 委員

年齢を重ねるほど免許が必要になることもあるため、自動運転などの科学技術の面で移動を支援することが大切であり、経済も回していくことにも繋がる。ただ、すぐには実現出来ないため、二種免許がないとタクシーの運転ができないではなく、二種免許を科学技術で補完し、普通免許でもタクシーの運転ができるなど、段階的な対応が必要になってくると思う。

L 委員

今日の意見は重要な観点を含んでいるため、本計画に反映していただきたい。

資料 2 の P25 の課題整理の仕方がこれでよいのか。現状の問題点の整理結果が、他の地方都市でも該当する内容が列挙されている。綾部市で本当に重要な点はこれだけか。地域によって課題の強弱があるので、市全体の問題点だけではなく、綾部のそれぞれの地域性を反映した、綾部市としての課題がわかるようにしていただきたい。

様々な年代の方がおり、働いている人、高齢者の中でも 200～300m 先のバス停まで歩くことができる人、ラストワンマイルがないと移動できない人、子育てをされている人、子連れの人、それぞれが抱えている課題は異なる。そのため、地域性と年代の両方の視点から課題を掘り下げていただきたい。課題を掘り下げ、ターゲットを絞ることによって、具体的な対応策を考えていく必要がある。

あやバスに大きな期待をされているが、あやバスで対応可能な範囲には限りがある。あやバスで対応できない課題は、鉄道や福祉フロンティア、自動運転が担うところもある。色々なモードを、色々な技術を総動員しながら、課題に対応することを考えていくことが必要である。ただし、自動運転は、もう少し先にならないと、みなさんのイメージを実現するのは難しいと思う。

最後に、自慢できるようなまち、地域への愛着、言い換えれば“シビックプライド”を持てるようなまち・公共交通にすることは重要な観点である。ただ、綾部市はあやバスにかなり力を入れているため、実はみなさんが思っているよりも公共交通が充実しているかもしれない。そのため、他都市の状況と比較し、その状況を市民にも知っていただくことが大事で、シビックプライドの醸成にも繋がる。

5 閉会